

2025年度

教育学学位プログラムによる 多文化共修活動

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業 「多文化共修活動」支援のプログラム

<https://social-impact.projects.tsukuba.ac.jp/>

※本事業の人材養成目的：(筑波大学 計画調書より抜粋)

地域社会に横たわる様々な解決困難な課題を、文化や言語、専門分野の相違を超えて複眼的・俯瞰的にあらゆる視座から解析でき、留学生や海外大学の学生、自治体や企業の関係者と協業し、ともに未来デザインの提案ができる人材。さらにグローバルな環境下で自らの強みを縦横に分析・把握し、ステークホルダーに魅力ある自己を表現しながらオリジナルな課題解決が提案できるグローバルスタートアップ人材

※本事業における多文化共修の定義：(文部科学省 R6 年度公募要項より抜粋)

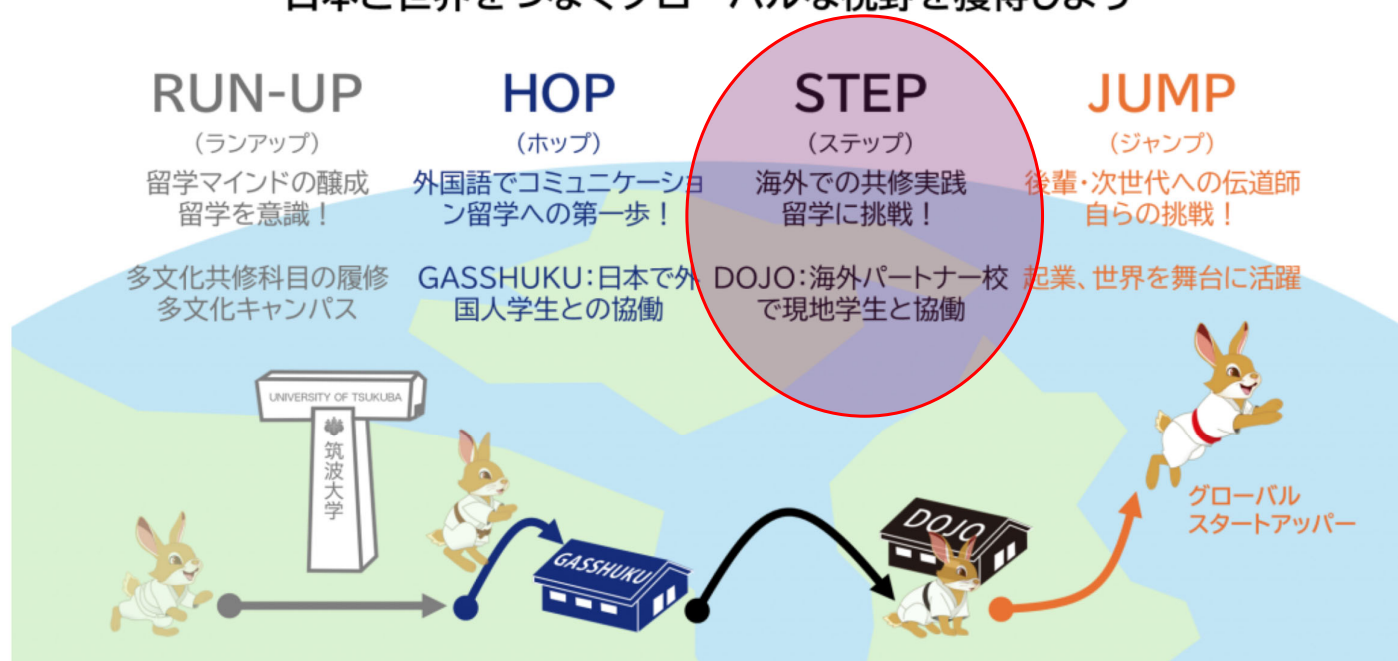
大学等が教育研究活動を行う 国内外の地域における課題について、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至る までの過程において、日本人学生と外国人学生がそれぞれの文化的多様性を活かし共に学修すること

GASSHUKU（合宿）とDOJO（道場）によるグローバルスタートアップ人材育成

GASSHUKU（合宿）とDOJO（道場）は、文部科学省によって採択された「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」のもと筑波大学が提唱する多文化共育を推進するための取り組みで、日本人学生と外国人学生とが文化や言語、専門分野の違いを超えて、その多様性を活かしながら協働して学びます。国内外の地域社会に横たわる様々な解決困難な課題を発見・分析・解決策を提案し、社会変革に向けた行動力や実装力を身に着けたグローバル人材の育成を目指します。本プログラムを通して、グローバルな課題に挑戦する情熱と能力を養います。

分析力、異文化対応力、革新的思考力を備えた「グローバルスタートアップ人材」を育成するため、筑波大学は「武者修行」というコンセプトを採用しました。「武者修行」とは、封建時代のヨーロッパで行われていた「騎士道」と同じようなものであり、武者（修行者）は、自分の技を磨くために各地を放浪します。本事業ではこのコンセプトのもと、RUN-UP（ランアップ）、HOP（ホップ）、STEP（ステップ）、JUMP（ジャンプ）の段階を経て実現されます。具体的には、「GASSHUKU」や「DOJO」など、企業・団体・大学・地域が共同で学びの場を提供し、日本人と留学生が共に課題に取り組みます。

GASSHUKU(合宿)とDOJO(道場) によるグローバルスタートアップ人材育成 ～日本と世界をつなぐグローバルな視野を獲得しよう～



(1) 質保証された課題解決型学習(PBL)の実施

筑波大学の日本人学生と現地大学等の外国人学生の協働による社会問題への問題意識と、その問題を解決するための課題解決型学習(PBL)が組み込まれていることが必須である。座学にとどまらず、フィールドワーク、解決案の作成、発表等を含むこと。

(2) 参加学生の人数及び属性

原則として、最低人数5人(日本人学生)+5人(外国人学生)とする。上限人数は特に定めない。

【海外で実施する場合】

筑波大学の日本人学生と現地大学等の外国人学生の両方が参加することを必須とする。また、学士課程学生(優先)または修士課程の学生であること。

※共修活動を通して、学生の異文化理解、多言語理解、キャリアデザイン、社会問題への意識の4つのコンピテンスの向上を目指し、学生の活動について学生自身が記録に残せるよう、IV-Campusを使ってオープンバッジを発行します。

【4つのコンピテンス】

①異文化理解：文化の違いを超えて、他者と理解しあえる

②多言語理解：コミュニケーションを外国語で行える

(3つ以上の多言語スキルを保持していなければいけないという意味ではない)

③地球規模課題理解：国内外の様々な解決困難な課題を理解する

④キャリアデザイン：当該の多文化共修と自身の将来のキャリアの関係を理解する

地球規模課題の解決に資する教育政策の策定・実施(中国・タイ)

課題解決型学習（PBL） の具体的内容	事前学習において中国とタイにおいて検討したい地球規模課題を各自で設定する。 現地訪問中に CA6 の本学派遣学生、華東師範大学（中国）及びコンケン大学（タイ）学生と協働でフィールドワークを行い、自分が設定した地球規模課題の解決方策についてディスカッションする。 ディスカッションを踏まえて、各自の解決方策を提案し、それについてディスカッションする。 事後において、現地での活動全体を振り返るとともに、地球規模課題の解決のための教育政策の提案をレポートとして提出する。
日程と活動計画 （事前・事後の活動も含む）	※日程は調整中のため変更の可能性あり。 11 月中に事前学習（対面 1 日） 11 月 30 日 日本出発・上海到着 12 月 4 日 教職員は華東師範大学学長表敬訪問／学生は CA6 プログラム派遣中の学生とフィールドワーク参加 12 月 2 日 CA6 プログラム派遣中の学生フィールドワーク参加&華東師範大学学生とのディスカッション／CA6 プログラム担当教員と次年度以降のプログラムの具体についての協議 12 月 3 日 上海出発・コンケン到着／参加学生との顔合わせ・アイスブレイク 12 月 4 日 教職員はコンケン大学学長表敬訪問／学生は CA6 プログラム派遣中の学生とフィールドワーク参加 12 月 5 日 CA6 プログラム派遣中の学生フィールドワーク参加&コンケン大学学生とのディスカッション／CA6 プログラム担当教員と次年度以降のプログラムの具体についての協議 12 月 6 日 コンケン出発・日本帰国 12 月中に事後学習（対面 1 日）、課題レポート提出 <u>※現地滞在中、教職員は言語的な支援、ディスカッションのファシリテーション、写真・動画撮影等の記録、を分担して行う。</u>
学生の参加条件	中国とタイをフィールドとして地球規模課題の解決に向けた教育政策を検討したい意欲をもつ学生
学生が獲得するコンピテンスの確認方法	① 異文化理解 ・タイ・中国の歴史・自然・経済発展についての現地学生とのディスカッションと振り返り ② 多言語理解 ・英語によるディスカッションと振り返り ・英語によるプレゼンテーションと振り返り ③ 地球規模課題理解 ・中国・タイの歴史・自然・経済発展についての理解を深め、自分が設定した地球規模課題の視点から、その解決方途についての提案と振り返り ④ キャリアデザイン ・東アジア・東南アジアとの相互理解の深化と自分自身のキャリアとの関係に関する振り返り
大学以外の機関の関与	あり（機関名：現地の初等・中等学校、外灘、Wat Nong Waeng ）・なし 大学以外の機関からの支援内容（資金、施設、人材、その他） 学校において授業を参観するとともに校長・教員と意見交換をおこなう。 上海の外灘歴史建造物群、コンケンの寺院 Wat Nong Waeng など

多文化共修（中国・タイ）派遣スケジュール(案)

					午前	昼食	午後	夜	宿泊先
Day1	12月7日	日	中国	学生	✈成田-浦東	機内食	浦東空港→ECNU 関行キャンパスへ移動	CA6派遣学生4名とディ スカッション	ECNU 関行キャンパス ：教師之家
				教職員	MU272 10:55-13:45				
Day2	12月8日	月		学生					ECNU 関行キャンパス ：教師之家
				教職員					
Day3	12月9日	火		学生					ECNU 関行キャンパス ：教師之家
				教職員					
Day4	12月10日	水	タイ	学生	✈浦東-バンコク	機内食	空港滞在	✈バンコク-コンケン TG046 19:40-20:40	KKU キャンパス Bayasita Hotel(予定)
				教職員	MU541 08:35-12:20				
Day5	12月11日	木		学生			13:30-14:15 コンケン大学学長表敬	CA6派遣学生2名とディ スカッション(TBD)	KKU キャンパス Bayasita Hotel(予定)
				教職員					
Day6	12月12日	金		学生				✈コンケン-バンコク TG047 21:10-22:10	
				教職員					
Day7	12月13日	土			✈ バンコク-浦東 MU548 01:55-07:10 ✈ 浦東-成田 MU523 09:10-12:50	機内食			

■中国滞在先ホテル（予定）

関行キャンパス内：**教師之家**

部屋タイプ：標準間（ツインルーム）のみ

料金：一泊498元（約10,300円）

詳細情報（ご参考）：

<https://m.ctrip.com/html5/hotel/hoteldetail/2307140.html>

■タイ滞在先ホテル（調整中）

コンケン大学キャンパス内：**BAYASITA HOTEL**

詳細：KKUと調整中（変更になる可能性があります）

<https://bayasita.kku.ac.th/en>

日韓両国の青年どうしの相互理解促進のための教育戦略の提案	
課題解決型学習（PBL） の具体的内容	・朝鮮半島の歴史に関する事前学習 ・朝鮮半島の歴史に関するフィールドワーク（博物館、非武装地帯など） ・韓国の学校におけるフィールドワーク（国際理解・多文化理解の実践） ・日韓両国の学生による協働討議とプレゼンテーション
日程と活動計画 （事前・事後の活動も含む）	事前学習：10月の1日 派遣学生による対面での事前学習 11月2日 AM 日本出発 PM 韓国教員大学校（清州市）到着後、現地学生との顔合わせと活動計画の確認等 11月3日 教職員は学長表敬訪問／学生は CA6 派遣学生と講義聴講＆現地学校のフィールドワーク＆振り返り 11月4日 AM 現地学校のフィールドワーク／国立清州博物館等のフィールドワーク＆ディスカッション 11月5日 AM 日本人学生と教職員はソウル市へ移動 PM 現地学校でのフィールドワーク 11月6日 DMZ（DeMilitarized Zone：非武装地帯）ツアーによるフィールドワーク 11月7日 戦争記念館ほかソウル市内史跡フィールドワーク／日韓相互理解のための教育戦略についてのグループ討議及び提案作成 11月8日 AM 活動全体の振り返り（日本人学生） PM ソウル出発、日本帰国 事後学習：11月の1日、オンラインで韓国の学生に対して教育戦略提案のプレゼンテーションを行いグループディスカッション ※日程は先方と調整中のため変更の可能性があります。 ※11月2日～4日は韓国教員大学校の韓国人学生、CA6 で現地滞在中の本学派遣学生3名と協働活動。5日以降は日本人学生9名で協働活動。 <u>※韓国滞在中、教職員は言語的な支援、ディスカッションのファシリテーション、写真・動画撮影等の記録、を分担して行う。</u>
学生の参加条件	韓国の歴史と文化に関心をもち、韓国人学生と英語で協働学習する意欲をもつ者
学生が獲得するコンピテンスの確認方法	① 異文化理解 ・韓国の歴史・伝統文化についての韓国人学生とのディスカッションと振り返り ② 多言語理解 ・英語によるディスカッションと振り返り ・英語によるプレゼンテーションと振り返り ③ 地球規模課題理解 ・朝鮮半島の歴史と韓国文化についての理解を深め、国際的な友好関係構築のための教育戦略についての提案と振り返り ④ キャリアデザイン ・日韓の相互理解の深化とそのための教育戦略を検討することと自分自身のキャリアとの関係に関する振り返り
大学以外の機関の関与	あり（機関名：清州市およびソウル市の学校等）・なし 大学以外の機関からの支援内容（資金、施設、人材、その他） ・清州市およびソウル市の学校 ・DMZ の日本語ガイドツアー ・国立清州博物館、ソウル戦争記念館、独立記念館など

〔多文化共修活動 韓国日程案〕

	12/1(月) in 清州	12/2(火) in 清州	12/3(水) in 清州	12/4(木) in ソウル	12/5(金) in ソウル	12/6(土) in ソウル	12/7(日) in ソウル
午前	- つくば駅 7:20 発ー成田空港第3ターミナル 8:12 着 ・エアロ K(RF391) 10:35 NRTー13:05 CJJ ・チョンジュ国際空港→韓国教員大学校(送迎あり)	<u>フィールドワーク①</u> ● 公州武寧王陵と王陵院 ● ウンジンベクジュ歴史館 ● 公州 公山城(ユネスコ世界遺産[文化遺産])	<u>学校訪問①</u> ● テソン小学校(調整中)	9:00 頃～ ・教員大→オソン駅 ・オソン駅ー(ktx)ーソウル駅ー支庁駅 ・ホテルに荷物預ける	<u>フィールドワーク④</u> 7:00 頃～13:30 頃 ● 南北境界線(DMZ)ツアー	<u>フィールドワーク⑤</u> ● 西大門刑務所歴史館 入館料: ₩300	<u>グループワーク③</u> (成果発表の準備および振り返り) チェックアウト ～仁川空港へ移動～
昼食	検討中		検討中	● ボクソングクトクスグン店(韓国式中華)	● モクヒョク山房(ビビンバ)	● ジョンタムウンボッサム北村店(ポッサム)	
午後	14:30 入寮 15:00-18:00 ・ <u>特別講義</u> (教員大教授) →韓国教育の歴史について ・大学案内等	※昼食・夕食も含む ※教員大が貸し切りバスを用意。	<u>フィールドワーク②</u> ● 清州 上党山城	<u>フィールドワーク③</u> ● 戦争記念館	<u>フィールドワーク⑤</u> ● 徳寿宮(周辺を散策) ● 大韓民国歴史博物館 ● 景福宮(入館料: ₩300) ● 国立現代美術館(時間があれば)	<u>フィールドワーク⑥</u> ● ソウル教育博物館 ● 北村韓屋村(散策) ● 広蔵市場 <u>グループワーク②</u>	
夕食	会食		検討中	● コルモク食堂(サムギョプサル、チゲ等)	● 土俗村サムゲタン(サムゲタン) <u>グループワーク①</u>	検討中	
※帰国後、オンラインにて成果発表会							

宿泊費: ①教員大の寮(ハミングダン)

- ②ホテルシンシン明洞: 1人3泊
- ・1人部屋: 約48,000円
 - ・2人部屋: 約24,000円
 - ・3人部屋: 約21,000円

移動費等・つくば駅ー成田空港 高速バス 2,400円(片道)

- ・往復航空券 約37,000円
- ・入館料 ₩600(約635円) ←ソウルの日程のみ。

世界にはばたく、 君を応援する。

第3回募集

筑波大学 はばたけ！

検索



はばたけ！ 筑大生

2025年度
筑波大学海外留学支援事業

2025年12月以降の派遣が対象

01

国際交流協定校交換留学

国際交流協定校のうち学生交流協定を締結している海外の大学へ交換留学する学生を支援

02

CiC協定派遣等

CiC 協定、DDP、JDP等により海外へ派遣される学生を支援

03

多文化共修活動参加

学内組織が海外において実施する多文化共修活動へ参加する学生を支援（多文化共修活動を企画実施する教職員が申請）

04

語学研修・海外研修参加

本学又は学内組織主催、共催で海外において実施する語学研修や海外研修プログラムへ参加する学生を支援（研修プログラムを企画実施する教職員が申請）

申請期間

2025年10月1日（水） ▶ 2025年10月24日（金）

※ 各エリア支援室等の締切日は、早めに設定される場合がありますので、各エリア支援室等に事前にご確認ください。

対象

筑波大学の学群または大学院の正規課程に在籍する者

申請書類提出先

各エリア支援室等



支援内容

旅費

詳しくはこちら ▶

<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ies-top/go-abroad-top/scholarship-4-ga/habatake>



多文化共修活動参加支援 ～全体の流れ～

学生の応募：CA6は
10/8（水）まで

教員が申請



申請書類の準備

募集要項を確認し、
必要書類の準備を
してください。
企画参加者名簿に
記載する学生は、
申請者が募集・選
考をしてください。

「大学の国際化に
よるソーシャルイ
ンパクト創出支援
事業多文化共修活
動支援」に採択さ
れた企画または申
請中の企画のみ。



申請

学類・学位プログラム
事務室、支援室等に提
出。
学類・学位プログラム
事務室によっては、提
出〆切を早めに設定し
ている場合があります
ので、事前に確認して
ください。



選考

申請書類に基づき審
査を行います。

12月中旬頃



選考結果通知

採択されたら、企画参加者
名簿に記載の学生に、はば
たけの支援（旅費）を受け
るために必要な出張手続き
について、採択通知を示し
たうえ支援室等で確認する
よう案内してください。
企画参加者名簿に基づき参
加学生の所属教育組織（支
援室）にはばたけの支援金
（旅費）に使用する予算を
配分します。



多文化共修活動



事後手続き

支援金（旅費）の支
給に係る事後手続き
について、支援室等
に確認してください。
報告書を作成し、提
出期限までに忘れず
に提出してください。

はばたけ支援金額

韓国
6万円

支援を受けられるかどうかは、
12月中旬の選考結果通知まで
分からない点、ご了承の上で
応募願います。

中国・タイ
13万円

韓国研修にかかる費用（想定）

移動費 往復航空券	国内・現地交通費 約4万円（LCC利用）
宿泊費	3泊は韓国教員大学校の寮 3泊はソウル市内のホテル 1人部屋 約48,000円 2人部屋 約24,000円 3人部屋 約21,000円 （金額は3泊分）
その他	食事代、旅行保険代等

中国・タイ研修にかかる費用（想定）

移動費 往復航空券	国内・現地交通費 約16万円
宿泊費	3泊は華東師範大学キャンパス内のホテル 2泊はコンケン大学キャンパス内のホテル 1泊機中泊
その他	食事代、旅行保険代等

申込方法

■ 〆切：2025年10月8日(水) 12:00

■ 申込フォーム：<https://forms.gle/EVaPgjoUecATHZGd7>

■ 「はばたけ」と他の留学奨学金との併給は不可です。



申込フォーム

派遣が決まったら

■ 履修登録：下記の科目の履修登録をしてください

- ・ 学類生 8331183 多文化共修による課題解決実習（海外）B（1単位）
- ・ 大学院生 0ATAY41 海外教育調査実習（1単位）

■ JV-Campusアカウント作成：

詳細については後日お知らせいたします。